

認定こども園 みどりがおかようちえん

進んだり、立ち止まったり、振り返ったり。すべて大事な過程！
～続けてきたから芽吹いた“変化”～

保育環境づくりのポイント

昨年度までの取り組みで、“環境整備を常日ごろからどう意識して、継続していくかが課題である”と実感していました。今年度はその“常日ごろから”と“継続”を模索した1年でした。

いかに担当以外の保育者や、保護者、子どもたちにも、どうしたらより関心をもってもらえるか考え、進めました。トライしては悩む、を繰り返す中で、今年度は園のやりたい保育が見えてきたり、保育のやりがいや楽しみにも出会えた年でした！

～こどもたちのこの力を育みたい～

☑感じる・気付く力 ☑うごく力 ☑考える力
☑やりぬく力 ☑人とかがわる力

取り組み内容

◎他園の取り組みを知り始まった“環境整備の日”

今まで継続してきた成果や変化を感じてきた今年度。みんなが継続して環境整備に関わっていくにはどうしたらいいかと悩んでいた矢先、夏の5つの力 キックオフ研修での他園さんの『月に数回の環境整備の日』のお話を聞き、さっそく本園でも”3(み)のつく日“に整備を行ってみることに。地面を耕して柔らかくしたり、砂場の砂の補充をしたり、職員が日ごろ気づいた場所を伝え合い、行っています。大切なことは**保育の合間**に出来る先生が気づいてやっていくこと！その時に側にいる子ども達にも「地面を柔らかくしてたらね・・・」と意図を伝えながら一緒にしていくこと！大人も子どもも積極的に関わっていけるように意識しています！



◎5年目にして中央が埋まった園庭

取り組み始めて5年目、ついに本園自慢の“広い園庭”が変わりました。“だっ広い空間”から”多目的な空間”を目指して、登ったり・降りたり・くぐったり・待ち合わせしたり・隠れたり・走り抜けたり…。乳児から幼児がそれぞれに関われる遊具作りを決意し、富山への施設見学を経て、園児も保護者も巻き込んで12月に2つの高さのある遊具作りをしました。

設置場所の土壌改良は1か月以上前から先生と園児の手作業で行い、どんな遊具を作るのか模型も展示もしました。ワークショップでは、「家でも子どもが新しい遊具の話をする」「土壌改良を子どもが楽しんでいて、興味が沸いた」と、参加して下さった保護者もいました。下準備から行った環境整備だからこそ、園庭作りが自分事になっていく手ごたえを感じました！



◎環境を見直して、大人の姿が変わった

園庭が変わって、子どもたちの過ごし方も変わってきました。それを見守る大人も心に柔軟性ができたので、日課を見直しや、活動内容にも変化をつけてみよう と取り組んでいきました。「遊ぶ場所(屋内／屋外)を先生が決めてるけど、子どもたちで決められないかな？」「クラスの子がどこにいるかわからないと心配」「もっと異年齢でのかかわりも増やしたい」。

関わる人達みんなが環境について、保育について、不安も わくわくも 思いを発信できることが増えてきました。環境を見直せば、子どもの姿が変わる。子どもの姿が変われば、大人も変わる！



東広島市アクションプランで取り組んだ保育環境の見直し。自園だけで取り組んでいたら、ここまで続けられなかったかもしれません。ですが続けたからこそ目に見えるところも、見えないところも、変化を実感出した5年目でした。まだまだ取り組み途中ですが、この変化を“環境”だけにとどめないようにこれからも続けていきたいと願っています。

園長 梅崎祥子

